



令和5年9月29日

航空局 安全部 空港安全室

「空港の安全に関わる情報(令和4年度)」の公表

～「第10回空港安全情報分析委員会」の結果概要～

令和5年8月3日(木)に、第10回空港安全情報分析委員会を開催し、空港分野の安全に関わる情報の報告(令和4年度)について審議しましたので、その結果概要を取りまとめました。

1. 空港安全情報分析委員会について

平成26年4月より適用された「航空安全プログラム」により、安全情報^{注)}を収集するための報告制度を導入いたしました。

この制度により、空港の設置管理者は安全上の支障を及ぼす事態が発生した際、関連情報を収集し航空安全当局へ報告しなければならないことになっています。

国土交通省では、報告された安全情報についての分析及び公表を適切に実施するため、本委員会を毎年開催しています。(委員名簿は別紙1参照)

注)「安全情報」とは、航空事故や重大インシデント及びその他の安全上の支障を及ぼす事態に関する情報を指します。

2. 議事概要

(1) 航空局より空港分野の安全に関する取組みを報告しました。

(2) 令和4年度に空港の設置管理者より報告された安全情報について、評価・分析を行いました。

当該安全情報について取りまとめを行い、安全監査の実施状況と合わせて、その内容を「空港の安全に関わる情報(令和4年度)」として公表することとしました。

本報告は以下のURLより入手可能です。(概要は別紙2参照)

http://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr9_000016.html

【問い合わせ先】

航空局 安全部 空港安全室 尾野、高島

代表 : 03-5253-8111 (内線:49554、49565)

直通 : 03-5253-8701 (空港安全室)

空港安全情報分析委員会 委員名簿

(敬称略)

(委員長)

福手 勤 東洋大学 名誉教授

(委員)

垣本 由紀子 日本ヒューマンファクター研究所 顧問

小松原 明哲 早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科 教授
(交通管制安全情報分析委員会 委員長)

井上 慶司 国土技術政策総合研究所 空港研究部長

(特別委員)

河内 啓二 東京大学 名誉教授 (航空安全情報分析委員会 委員長)

(オブザーバ)

定期航空協会

(航空局)

北澤 歩 航空局 安全部長

渡邊 敬 大臣官房参事官 (安全企画)

木内 宏一 大臣官房参事官 (航空安全推進)

木原 正智 航空局安全部安全政策課空港安全室長

鈴木 一永 航空局安全部安全政策課航空交通管制安全室長

「空港の安全に関わる情報(令和4年度)」(要約版)

1. 安全に係る情報の発生状況

令和4年度において、空港管理者から報告のあった、空港の設置管理者が管理する施設又は運用に起因する又は起因して発生した航空機事故・重大インシデント及び安全上の支障を及ぼす事態の安全情報は以下のとおり。

1-1 空港の設置管理者が管理する施設又は運用に起因する又は起因して発生した航空機事故・重大インシデント

(1) 航空事故 : 0 件

(2) 重大インシデント : 1 件

概要:

令和4年12月12日、エス・ジー・シー佐賀航空機(セスナ式172P型)は、滑走路はクリアー※であることを意味する情報を受け佐賀空港に向けて進入中、運航情報官から滑走路手前で待機するよう連絡を受けたバードスイープ用車両が停止線を超えて同滑走路に進入したため、当該機が着陸復行した。

事故等の種類 : 他の航空機等が使用中の滑走路への着陸の試み

調査状況 : 運輸安全委員会により調査中

死傷者 : 無し

※ 滑走路はクリアーとは、次の意義を持つ用語

「滑走路上にトラフィックおよび障害物がないと空港管理者から報告があった場合使用されるが、着陸許可又は離陸許可を意味するものではない。」

1-2 安全上の支障を及ぼす事態

単位: 件

	令和4年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
安全上の支障を及ぼす事態	8	3	7	7	5	10	2	4	10	6	7	7	76
制限区域内事故	6	2	1	2	0	3	0	4	6	2	3	2	31
施設・設備の破損	1	1	4	3	3	2	0	0	3	1	2	4	24
無許可・誤進入	1	0	2	2	2	5	2	0	1	3	2	1	21
空港道路の管理不備													0

1-3 安全上の支障を及ぼす事態内訳

- (1) 制限区域内において、地上での作業又は地上の施設若しくは物件に起因する人の死傷、又は航空機が損傷した事態

単位: 件

	令和4年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
制限区域内事故	6	2	1	2	0	3	0	4	6	2	3	2	31
作業員の死傷	2	1	1	1		2		2	5	2	1		17
旅客の死傷	1												1
航空機の損傷	3	1		1		1		2	1		2	2	13

- (2) 施設、設備、機器等の突発的な不具合や損傷により航空機の正常な運航に安全上の支障を及ぼす事態

単位: 件

	令和4年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設・設備の破損	1	1	4	3	3	2	0	0	3	1	2	4	24
舗装破損	1	1	0	2	1	2			1				8
消火能力の低下			1		2				1	1	2		7
その他			3	1					1			4	9

- (3) 誤った操作、運用により航空機の正常な運航に安全上の支障を及ぼす事態

単位: 件

	令和4年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
無許可・誤進入	1	0	2	2	2	5	2	0	1	3	2	1	21
無許可進入				2	1	5	2		1	2	2	1	16
誤進入					1					1			2
その他	1		2										3

- (4) 構内道路の管理不備

事案なし(0件)

2. 安全に関わる情報の評価・分析と今後の対策等

第10回空港安全情報分析委員会において、令和4年度の空港分野における安全情報について、委員の方々から質問やご意見を頂き、活発な審議が行われました。

例えば、空港の安全目標に基づく活動は業務提供者も主体的に当事者意識を持った取り組みが大事であること、ヒューマンエラー対策については、コロナ禍の復便や人手不足などの課題もあり、様々な角度からの分析や、自動化の推進など大きな観点での検討が必要なこと、施設破損等の影響について、復旧までの時間軸からの分析や、事案減少につながる安全監査方法の検討は可能か、など様々なご意見やご示唆がありました。

これらに対し、事務局より、滑走路無許可進入対策として2名体制にした対策例や、ヒューマンエラーや未然防止について、これまでの事案データを分析、整理し、どこにどの程度のリスクがあり、対策がとられたのかを「見える化」することで、現場関係者との意見交換、現状把握、注意喚起、教育、未然防止、連携促進などにつなげる取り組み、様々な事案対策の参考例として、良好事例集を整理する取り組みなどを説明し、委員より賛同を得るとともに、今後とも幅広い観点から安全性の向上を推進していくことを確認しました。

以 上